トピックス
「おすすめの本」

労務書

生きる職場

小さなエビ工場の人を縛らない働き方

「働き方」の再考を促す

家業の食品加工会社で工場長を務める著者が始めた「出退勤時間の完全自由化」「嫌いな作業をやらないシステム」は、品質と効率を上げ、離職率と人件費を下げることに成功し、多くのメディアで話題となった。本書にはその経緯が書かれている。

主力が時給のパート社員で、少人数の職場であるなど、こうした制度を導入しやすい環境であるのも確かである。しかし重要なのは、導入に至るまでに著者がどのような経験をし、何を考えたのかを感じ取ることで、人の「本来あるべき働き方」に再考を促される点である。

平易な文ながら「食べ物」を扱う企業としての矜持と、それを維持するための労働者の雇用について、著者の信念が伝わっている一冊である。

（武藤北斗著、イースト・プレス刊、℡03-5213-4700、1500円＋税）

編集後記

今年は、例年より春の訪れが早いようです。我が家の北側の庭でも桜の木の下に福寿草が早くも綺麗な黄色の花を咲かせ、目を楽しませてくれています。数年前、三和町下三坂で行われていた福寿草まつりの折に一鉢買い求めて庭に移植したものです。ＴＶの報道では、今春は桜の開花も５～６日早いとのことで、今からあちこち桜の花を見て回るのを楽しみにしています。

さて、今年の４月からは「働き方改革」の一環として、年次有給休暇について年10日以上の年休が付与される労働者に対し、年５日の年休を労働者に取得させることが事業主に義務付けられます。我が国の年休取得率は長い間50％を下回る状況が続いており、先進国の中では低さが際立っています。この状況を打開するために、法律での義務付けとなったようです。

人生80歳、90歳が当たり前の時代となり、人手不足の状況も相まって65歳どころか70歳を超えても働きたいという人が増えています。元気で長い期間働くためには、途中で燃え尽きてしまっては何にもなりません。適度な休養を取り、リタイア後にはいろいろな趣味を楽しみながら余生を送れるように現役時代を過ごす知恵が求められているのではないでしょうか。

（専務理事　鈴木　寿信）